

平成30年度

苫小牧市美術博物館事業評価報告書

(平成29年度美術博物館自己点検評価に関する報告)

令和元年7月

苫小牧市美術博物館協議会

目 次

1	はじめに	1
2	美術博物館自己点検評価報告の流れ	2
3	自己点検評価の結果	3
	(1) 展示事業	3
	(2) 教育普及事業	3
	(3) 調査研究活動	4
	(4) 資料の収集、保存の方針	4
	(5) 管理運営	5
4	自己点検評価シート（一次・二次評価）	6
5	まとめ	17
6	苫小牧市美術博物館協議会委員名簿	18

1 はじめに

近年、地域の文化芸術活動の環境は変化し、住民ニーズの多様化、文化・芸術に対する関心の高まり、文化振興政策執行等の観点から、文化施設の地域振興に果たす役割は、ますます大きなものとなっています。なかでも公立の美術館や博物館は地域再生の拠点であり、その運営のあり方が重要な論点となっています。

苫小牧市美術博物館では、苫小牧市の地域の自然や歴史、文化芸術を発信する「知の拠点」を目指し、平成26年度からの3か年計画で「苫小牧市美術博物館実施計画」を策定し、2期目となる平成29～31年度は引き続き地域に密着した活動を広げるため、「あつめる」、「そだてる」、「ひろがる」の3つのテーマを活動方針と定めています。

また、実施計画では、当初より事業計画と目標について、適正に実施されているかどうかを自己点検するための評価制度を導入し、館による自己評価（一次評価）、および美術博物館協議会を活用した外部評価（二次評価）から構成する「苫小牧市美術博物館事業評価報告書」を作成することとしました。現在、試験導入期間を終了し、本格的に執行しているところです。

今後におきましても、この評価制度等を活用しながら、当館が抱える課題や反省点の改善の検討を行い、今後の美術博物館の活動の向上に努めてまいります。

令和元年7月

苫小牧市美術博物館
館長 長谷川 文作

2 苫小牧市美術博物館自己点検評価報告の流れ

■概要

苫小牧市美術博物館自己点検評価報告は、現在行っている活動を振り返り、適正に行われているかどうかを自己点検することで課題や反省点を自覚し、改善点の検討につなげるものである。

■自己点検評価の流れ

年度当初

「公益財団法人日本博物館協会博物館自己点検システム」を基にした評価指標（年間目標）の設定



年度末

【一次評価（自己評価）】

評価指標を基にした評価	具体的な内容を総括的に評価	客観的な視点
自己点検評価シート ・大項目は「苫小牧市美術博物館実施計画」に基づき設定（大別すると5事業の活動計画に分類） ・必要に応じて、利用者の声であるアンケート結果を反映させる ・スタッフ全員による評価結果の中央値を館による一時評価とする	I.展示事業、II.教育普及事業に関する報告と評価 ・事業内容、観覧者・参加人数、アンケート内容等の報告及び所見 III.調査研究活動に関する報告と評価 ・各学芸員の1年間の研究テーマに基づく業務内容の報告及び所見 IV.資料の収集、保存方針に関する評価 ・該当する方針に基づいて収集し、適正に管理をしているかどうかを評価 V.管理運営に関する評価 ・施設の改善に努め、効率的に運営管理しているかどうか等を評価	公益財団法人 日本博物館協会「博物館自己点検システム」参照 ・全国の博物館・美術館の自己点検に使用されている点検システムを参考資料に採用する



【二次評価】

一次評価を美術博物館協議会に提出。各委員が活動内容や評価指標（目標）の達成度を第三者の目線でチェックしたものを二次評価とする。

一次評価と二次評価をまとめ、苫小牧市美術博物館自己点検評価報告書を作成する。

※本自己点検評価シートは平成28年度から3か年実施し、平成30年度を終えた時点で、運用方法の再検討を行うものとする。

3 自己点検評価の結果

(1) 展示事業

【方針】

博物館と美術館の複合施設として様々な展示活動を実施します。

- ①複合施設としてそれぞれの特性を活かした新しい視点による展示事業を実施します。
- ②常設展の情報の更新やデータの追加など、常設展の充実に努めます。
- ③他都市館や地元企業、外部機関と積極的に連携を進め、様々な特別展、企画展を開催します。

<分析と評価>

- ・2回の特別展と4回の企画展及び収蔵品展・特集展示を当館学芸員による企画で実施した。
- ・トヨタ自動車北海道株式会社25周年事業「水から未来を紡いで20世紀美術の創造」は、企業と連携し共催事業として実施した。
- ・「柳原良平の海・船・港」は、船の科学館「海の学びミュージアムサポート」の助成を受け、商船三井、横浜みなと博物館などの所蔵作品から紹介した。
- ・「恐竜の玉手箱」、「NITTANARTFILE2 クロスオーバー」、「雷鳥・四季を纏う神の鳥—高橋広平写真展—」及びミニ企画展「昔の道具～火と人々の暮らし」と年間を通じて、自然、歴史、芸術に関する展覧会を実施した。加えて収蔵品展の実施など可能な限り多くの美術展を観覧できるスケジュールとしたことも来館者の増加につながった要因と考えられる。
- ・二次評価では概ね好評を得たが、苫小牧にゆかりのある展示会は素晴らしいが、一方で市民の盛り上がりや欠けるように感じた等、両立の難しさを指摘する声もあった。

(2) 教育普及事業

【方針】

子どもからお年寄りまで、幅広い市民を対象にした多彩な教育普及事業を実施します。

- ① 市民の自然、歴史、考古および文化芸術への多彩なニーズに応えるため、各種講演会講座ワークショップなど多彩な事業を展開します。
- ② 学芸員の専門性を活かした事業を実施し、学ぶ喜びを得る機会を提供します。
- ③ 学生や教員など学校教育と連携し、子どもたちの学習意欲や豊かな心を育みます。

<分析と評価>

- ・幅広い年齢層の市民を対象にした多彩な事業を実施した。特に子どもたちが多岐にわたる興味・関心を促すような事業の実施を心がけた。
- ・それぞれの企画展における関連イベントの実施のほか、新規事業も積極的に開催するなど、総事業数は増加傾向にある。
- ・学校教育との連携を目指し、アウトリーチ事業や教員向けの行事も継続して実施した。
- ・二次評価では概ねA評価を得たが、学校教育との連携では、資料解説にとどまらず、子ども達が能動的に学習を進めることができるよう、工夫が必要との意見等があった。

(3) 調査研究活動

【方針】

自然、歴史、考古、文化芸術に関する基本的な調査研究のほか、収蔵する資料に必要な調査研究活動を行います。子どもからお年寄りまで幅広い市民を対象にした多彩な教育普及事業を実施します。

- ① 収蔵資料に関する調査研究を推進します。
- ② 樽前山麓及び勇払原野を中心とした、苫小牧地方に関する調査研究を行います。
- ③ 大学などの高等教育機関他都市館園などと連携を深め、グローバルな視野で苫小牧の発展に寄与する調査研究を行います。

<分析と評価>

- ・自然、歴史、美術等の各分野において地域への貢献を視野に入れ、苫小牧地方に関する課題を設定し、調査研究を行った実績が積み重ねられることにより、展示、教育普及等の事業につなげることができている。
- ・平成30年度の企画展「『風の生涯』と勇払」の準備に当たって、各々の専門分野の学芸員同士が連携して、資料収集、調査研究を行うことで美術・歴史双方の分野の垣根を超えた絵画、彫刻、映像、歴史資料の展示構成という複合施設ならではの企画展の実施につながった。
- ・二次評価の中央値はAであるが、BやCと評価した委員も多く、学芸員による研究発表や論文発表等のための研究に費やす予算や時間の拡充が必要とする意見などがあった。

(4) 資料の収集、保存の方針

【方針】

郷土にゆかりのある資料を、「苫小牧市美術博物館資料収集方針」により収集し、適正な管理の下に保存するとともに、他館との連携を行い、情報共有を図ります。

<分析と評価>

- ・「苫小牧市美術博物館資料収集方針」に沿って資料を収集できているが、計画的な整理、リスト化などは不十分で今後の課題である。
- ・特別展では監視臨時職員、企画展ではボランティアによる監視員を配置、展示室内に監視カメラを設置している。今後は適切な資料管理を行なうための体制と環境整備を進める。
- ・展示室内では一部温湿度管理や虫害調査を行なっているほか、主に新規に収集した資

料や展示等収蔵庫外で使用した資料について燻蒸処理を行なった。

- ・資料の貸出規定を定め、近隣館園での事業や研究、書籍への画像や情報掲載のために利用された。
- ・二次評価の中央値はAであったが、Bと評価した委員も多く、資料管理体制や環境整備についての課題を指摘する声などがあった。

(5) 管理運営

【方針】

複合施設の美術博物館として、施設の安全面と市民の利便性を考慮して、使いやすい施設を目指します。

- ① 安心できる美術博物館として施設の改善に努め、館内利用の快適度を高めていきます。
- ② 事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って効率的に運営・管理します。
- ③ すべての人にとって利用しやすい環境を整えます。

<分析と評価>

- ・施設・設備の抜本的な老朽化対策に苦慮しながらも、予算の範囲内で施設の改修・改善を行った。
- ・入館者数の目標値は達成できた。経営計画として実施計画・事業計画を策定し、それらに沿った運営を行った。一部外部資金の導入も実施できた。しかし、目標値や計画自体を承知してない中での二次評価は難しいとの声もあった。
- ・市広報誌や新聞、館のホームページ等を介して最新情報を公開。友の会やボランティア制度、美術博物館協議会等の活用し、快適な環境を整えることに寄与した。

4. 自己点検評価シート（一次・二次評価）

一次評価及び二次評価の評価基準は以下に定める。

A：成果を挙げている（90-100%）

B：ほぼ達成している（70-80%）

C：より一層の努力を要する（50-60%）

D：努力が結果に結びついていない。方法そのものについて再検討を要する（50%未満）

I. 展示事業

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（運営委員による評価）
	評価指標	評価・委員コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
博物館と美術館の複合施設として、様々な展示活動を実施します。	1 展示方針を策定し、計画的に展示を行っている <評価> A 苫小牧市美術博物館実施計画の策定（3か年計画）。	<評価（中央値）> A <内訳> A：7 B：2 ・精力的に多彩な展示を行っている点が評価できる。なお、アンケート結果の資料がないので7については判断できない。 ・博物館の常設展示の更新計画を策定する必要がある。 ・展示図録の作成は難しいと思うのでグッズ的な販売の便宜を図るべきではないか ・アンケートや自己点検評価がどのように活用されたか明確にするべき。 ・企画展の間隔が長いように思う。 ・柳原良平展、高橋広平展は苫小牧にゆかりがあり、大変素晴らしい。しかし全体を通して市民の盛り上がりにかけるように感じた。
	2 常設展示は定期的に更新している <評価> B 収蔵展示室の定期的な更新や特集展示などを実施した。	
	3 展示図録やガイドブックを作成・配布（販売）している <評価> A 作品リストのほか、「柳原良平展」では図録を作成。	
	4 館の専門スタッフ（学芸員など）による展示の案内・解説を、定期的に行っている <評価> A 各展示会における学芸員のギャラリートークや解説会、作家によるアーティストトーク等を実施。	
	5 複合施設としての特性を生かした展示活動をしている <評価> A NITTANARTFILE2 では、美術と歴史の要素を活かした展示を行った。	
	6 他館や他団体との資料貸借により、幅広い展示活動を実施している	

	<p><評価>A</p> <p>各展示会において道内博物館、美術館を始めとした関連館園や作家所蔵の資料を貸借。</p>	
	<p>7 アンケート結果により、来館者の高い満足度指数を得られている</p>	
	<p><評価> A</p> <p>各展示会においてアンケートを実施。結果は年度でまとめて報告。</p>	

II. 教育普及事業

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（運営委員による評価）
	評価指標	評価・委員コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
II 教育普及事業 子どもからお年寄りまで、幅広い市民を対象にした多彩な教育普及事業を実施します	<p>8 教育普及活動を、策定した方針のもとに計画的に行っている</p> <p><評価> A</p> <p>苫小牧市美術博物館実施計画の策定（3か年計画）。</p>	<p><評価（中央値）> A</p> <p><内訳> A:8 B:1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内外でさまざまな教育普及活動を実践している点が評価できる。 ・参加者数目標やアンケート結果の情報が提供されていないので評価判断できない。 ・学校利用に備えたプログラム開発やスタッフの確保に関する活動についてもよくわからない。 ・デジタルミュージアムの充実を望む。 ・2階図書コーナーの活用を検討すべき ・市内小学3・4年生を対象にした「郷土学習」は、学習指導要領でも求められており、素晴らしい取組である。ただし、内容の一層の充実を望む。資料等の解説にとどまらず、子ども達が能動的に学習を進めることができるよう工夫が必要である。その際、苫教研社会科部会と連携するのも一つの方法と考える。 ・活動の様子が外部から見えにくいのが難点だと思う。それは事業の成果の積み重ねが見えていないことに由来するのではないか？
	<p>9 教育普及活動について参加者数の目標を設けている</p> <p><評価> A</p> <p>それぞれの行事において参加人数を設定</p>	
	<p>10 複合施設としての特性を活かした教育普及事業を実施している</p> <p><評価> A</p> <p>通年事業「美術博物館大学」・「博物クラブ」では多岐にわたる講座を設定。</p>	
	<p>11 他館・大学等と連携したセミナー、研究会、ワークショップ等を行っている</p> <p><評価> A</p> <p>他機関の講師による大学講座のほか、他館園の学芸員による解説会やワークショップ、近隣大学の研究者によるサイエンスカフェなどの実施。</p>	
	<p>12 博物館の利用方法についての講座、学芸員の仕事を体験する講座、バックヤードツアーなど、館の利用を支援する教育普及活動を実施している</p> <p><評価> A</p>	

	<p>市内中学生を対象とした職業体験、考古収蔵庫バックヤードツアー等を実施。</p>	
<p>13 来館者用の図書・情報コーナー（室）を設けている</p>	<p><評価> A エントランスには、デジタルミュージアム、2階には図書コーナーを設置。</p>	
<p>14 出張・移動活動（アウトリーチ活動）を行っている</p>	<p><評価> A 出前講座を実施。</p>	
<p>15 学校の利用に備えて、プログラムを準備したりスタッフを用意したりしている</p>	<p><評価> A 市内3・4年生を対象にした「郷土学習」、学校での団体利用時に解説するなどの対応をしている。博学連携事業として、H25年度より「ミュージアム in スクール（美術アウトリーチ活動）」、その他理科や社会科自由研究発表会への協力。</p>	
<p>16 学校の教員向けの利用説明会や研修会を行っている</p>	<p><評価> A H26年度より「教員のための博物館の日」を実施。</p>	
<p>17 博物館実習の実習生を受け入れている</p>	<p><評価> A H29年度は2名の実習生を受入。</p>	
<p>18 アンケート結果により、参加者の高い満足度指数が得られている</p>	<p><評価> A 各行事においてアンケートを実施。結果は年度でまとめて報告。</p>	

Ⅲ. 調査研究活動

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（運営委員による評価）
	評価指標	評価・委員コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
自然、歴史、考古、文化芸術に関する基本的な調査研究のほか、収集する資料に必要な調査研究活動を行います。	19 常勤の学芸員が配置されている <評価> A H29 年度末時点で7名を配置。	<評価（中央値）> A <内訳> A:5 B:3 C:1 ・学芸員を専門職として配置しているものの、学芸員等での研究発表、専門雑誌での論文発表、専門的な内容の書籍の執筆など研究成果は多くはない。調査研究のための予算や時間の拡充が必要と思われる。複合施設としての調査研究として、どのような成果が上がっているのかもよくわからない。 ・地域の文化の中核施設としての在り方や職員と市民との共働の指導等を検討、整備してもらいたい。 ・活動の様子が外部から見えにくいのが難点だと思う。それは事業の成果の積み重ねが見えていないことに由来するのではないか。
	20 学芸員を専門職として採用している <評価> A H29 年度末時点で7名を配置（正職員5名、嘱託職員2名）。	
	21 学会の大会や他館・他機関主催の研修や研究会に学芸員を派遣・参加させている。また、参加することを館の業務として認めている <評価> A 道内の博物館、美術館の協議会主催の研修会には業務として派遣。学会については業務ではなく、個人として参加（招待講演を除く）。	
	22 展示や教育普及、調査研究保存など学芸員の活動の成果を、館として刊行物等で公開している A「館報」「美術館だより」を年1巻ずつ刊行。	
	23 館として調査研究の方針・計画を策定している <評価> A H26 年度より、学芸員の調査研究計画書の作成を実施。	
	24 調査研究のための予算措置を行っている <評価> A No.23 に関連した予算を計上。	
	25 収集している資料と関連する学問分野について、調査研究に取組み、館として専門誌・専門書を購入したり機材・器具を設置したり、調査研究を進めるための環境整備を行っている。学芸系職員の勤務時間・職務内容について、調査研究	

	<p>の遂行のための配慮を加えている</p> <p>＜評価＞ B</p> <p>勤務時間での研究活動や専門書購入、設備の導入は困難な状況にあり、これは全国の公立館の共通課題である。</p>	
	<p>26 資料の管理・修復・保存、展示・教育普及活動の理論や方法、博物館経営など、博物館学分野での調査研究に取り組んでいる</p>	
	<p>＜評価＞ B</p> <p>専門分野だけではなく、資料管理や博物館業務全般にかかる調査研究の取組が必要。</p>	
	<p>27 地域への貢献を視野に苦小牧を中心とした地域や関連資料について、調査研究に取り組んでいる</p>	
	<p>＜評価＞ A</p> <p>各分野において地域を中心とした研究課題を設定。</p>	
	<p>28 他館や他研究機関と共同研究を行っている</p>	
	<p>＜評価＞ B</p> <p>今後、他機関と連携した共同研究など、視野の広い調査研究を行わなければならない。</p>	
	<p>29 複合施設としての特性を活かした調査研究活動を実施している</p>	
	<p>＜評価＞ A</p> <p>今後、専門分野だけではなく、教育分野等、博物館事業に関して分野間で協力した調査研究活動を推進する。</p>	

IV. 資料の収集、保存方針

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（運営委員による評価）
	評価指標	評価・委員コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
郷土にゆかりのある資料を、「苫小牧市美術博物館資料収集方針」により収集し、適正な管理の下に保存します。	30 館として資料収集の方針を策定している <評価> A 条例第2条に基づき「苫小牧市美術博物館資料収集要綱」を策定している。	<評価（中央値）> A <内訳> A:5 B:4 ・資料管理体制と環境整備について課題があるようである。予算措置を講じて改善することが望まれる。なお、資料の貸出しについて教育普及あるいは調査研究活動の実績として評価対象にできよう。 ・学術的な側面だけではなく、地域の文化や特色を考慮して資料の収集や展示を考えてもらいたい。 ・活動の様子が外部から見えにくいのが難点だと思う。それは事業の成果の積み重ねが見えていないことに由来するのではないかと。 ・収蔵スペースは十分あるのか。
	31 法令、条例、倫理規定などを遵守して資料収集するために、館としてガイドラインを策定している <評価> A 条例第2条に基づき「苫小牧市美術博物館資料収集方針」「苫小牧市美術博物館資料収集方針に基づく美術資料受入基準」を策定している。	
	32 資料の出所・来歴の妥当性、真贋などの検討を外部の専門家を含めて行い、その助言を得て資料の購入・受入を決定している <評価> A 条例第2条に基づき「苫小牧市美術博物館資料収集方針」「苫小牧市美術博物館資料収集方針に基づく美術資料受入基準」を策定している。	
	33 未整理資料について整理の計画を立てている。資料の修復を計画的あるいは必要に応じて行っている <評価> B 計画的な整理、リスト化、資料の把握は今後の課題のひとつ。	
	34 収蔵資料のうちの7割以上について資料情報を記録している。また、資料目録のデジタル化に努め、公開・資料情報の追加・更新を適宜あるいは定期的に行っている <評価> B 時代のニーズに合った所蔵資料の管理として資料のナンバリング、デジタル化の	

	<p>整備は今後の課題のひとつ。</p>	
	<p>35 温湿度・光量の管理が必要な資料のうちの半分以上の資料について、必要とされる管理を行っている</p>	
	<p><評価> A 展示室内では一部温湿度管理を行っている。今後適切な資料管理を行うための体制と環境整備を進める。</p>	
	<p>36 総合的有害生物管理（IPM）の考え方にに基づき、日常的に虫菌害の予防措置をとっている</p>	
	<p><評価> B 燻蒸処理や虫害調査を行っている。今後適切な資料管理を行うための体制と環境整備を進める。</p>	
	<p>37 収蔵品及び展示品の保存・展示環境について温湿度や光量を管理している</p>	
	<p><評価> A 展示室では一部温湿度管理を行っている。今後適切な資料管理を行うための体制と環境整備を進める。</p>	
	<p>38 展示室内に監視員や監視カメラを配置している</p>	
	<p><評価> A 特別展では監視臨時職員、企画展ではボランティアによる監視員を配置、展示室内に監視カメラを設置している。今後適切な資料管理を行うための体制と環境整備を進める。</p>	
	<p>39 資料の貸出しを認めると同時に規定・手続きを整備している</p>	
	<p><評価> A 資料の貸出規定を定め、近隣館園での事業や研究、書籍への画像や情報掲載のために利用されている。</p>	
	<p>40 他館や研究施設と連携し、資料の保存・管理に対する情報を積極的に収集している</p>	
	<p><評価> B 管理・保存レベルの向上への努力が必要</p>	

V. 管理運営

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（運営委員による評価）
	評価指標	評価・委員コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
<p>安心できる美術博物館として、施設の改善に努め、館内利用の快適度を高めていきます。</p>	<p>41 施設・設備の維持・改善について中長期計画を策定している</p> <p><評価> B</p> <p>施設・設備が老朽化しており、中長期的計画に沿った方策を検討。一方では予算内の現実的な対応も行っている。</p>	<p><評価（中央値）> A</p> <p><内訳> A:8 B:1</p> <p>・中長期計画。経営計画を承知していないので評価が難しい。自己収入については、科学研究補助金などの外部資金の獲得も視野に入れるべきである。アンケートの結果やその結果を受けてどのように事業に活かしたのか情報がなく、よくわからない。各事業の来館者数についても目標値の情報がないので、どの程度達成したのか判断できない。友の会やボランティア制度などについては整備させていることは分かるが、大切なのはそれらの制度がどの程度活かされているのかである。展示・教育・調査の項目等でその実績を評価できるようにした方がよい。</p> <p>・そつなく滞りなく、管理運営されているように見えるが、より多くの市民の共感、応援、親しみを得られることを望む</p> <p>・将来カフェができるとよい。</p>
	<p>42 危機管理マニュアルを整備し、防災・小眉宇・救急・救命訓練を定期的実施している</p> <p><評価> A</p> <p>定期的訓練を実施。必要に応じて研修にも参加している。</p>	
	<p>43 バリアフリー化について改善が必要な個所を把握するための自己点検を実施している</p> <p><評価> B</p> <p>適宜点検を実施し、計画に従い可能な範囲で改善を行っている。</p>	
	<p>44 案内表示に関して出来る箇所からまたは計画的に改善を行っている。来館者の動線に関して目視調査などによって現状を把握し、必要な改善を行っている</p> <p><評価> B</p> <p>適宜点検を実施し、計画に従い可能な範囲で改善を行っている。</p>	
	<p>45 館内美化に努めている</p> <p><評価> A</p> <p>利用者にとって心地よい館内空間を意識して努めている。</p>	
	<p>46 休憩コーナーを設置している</p> <p><評価> A</p> <p>エントランス及びラウンジを無料で開放。</p>	
	<p>47 利用実態に応じて開館時間を延長したり、夜間開館を行ったり、開館時間の設定の見直しを行っている</p>	

	<p><評価> A 年数回夜間開館日を設定。</p>	
	<p>48 質問・相談・問い合わせの窓口を利用者に向けて示し、利用者からの要望や苦情への対応手順を定めている。また、来館しないでも質問・相談・問い合わせのできる体制（電話・ファックス・手紙、インターネットの活用など）を整えている</p>	
	<p><評価> A HP 上での窓口やエントランスの学芸員コーナーの設置などで利用者の意見を広く聴く体制を整備。</p>	
<p>事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って効率的に運営・管理します。</p>	<p>49 館と設置者との連絡調整を定期的に行っている</p>	
	<p><評価> A 所属元である教育委員会のほか、市の関連部署との連携も行っている。</p>	
	<p>50 館の事業や業務に関して、意思決定のための会議を定期的に行っている</p>	
	<p><評価> A 週1回の全職員での定例会議や担当者間でのミーティングを定期的に行っている。</p>	
	<p>51 自己収入額、入館者について目標を設定し、目標を達成するために年度毎及び中長期的な経営計画を立てている</p>	
	<p><評価> A 自己収入額、入館者数の目標を設定。実施計画・事業計画等を策定している。</p>	
	<p>52 事業面、管理運営面など全般にわたる自己評価及び外部評価を実施している</p>	
	<p><評価> A 毎年度本評価により実施。</p>	
	<p>53 年報、要覧やインターネットを通して、事業実績や館の運営状況を公開している</p>	
	<p><評価> A 年報、紀要は毎年発行、美術博物館だよりはHP上でもPDF版を公開している。</p>	

	<p>54 外部資金の効果的な導入を実施している</p> <p><評価> A</p> <p>積極的に外部資金を利用し、幅広い事業宴会を目指している。「柳原良平展」では「日本海事科学振興財団助成金」より展示助成を獲得した。</p>	
<p>すべての人にとって利用しやすい環境を整えます。</p>	<p>55 館として広報宣伝計画を策定している</p> <p><評価> A</p> <p>市広報誌や新聞などの媒体への情報掲載、関係機関への印刷物の配布をはじめとした広報活動を実施。</p>	
	<p>56 館のホームページを開設し、掲載内容を適時・適切に更新できる体制をとっている</p> <p><評価> A</p> <p>HPは定期的に更新し、最新情報を公開。</p>	
	<p>57 館の広報誌（ニュース・レターなど）を発行している</p> <p><評価>A</p> <p>「美術博物館だより」や「びとこま」を発行。</p>	
	<p>58 来館者数の目標を立てている</p> <p><評価> A</p> <p>各事業において来館者、参加者人数の目標を設定。</p>	
	<p>59 館の利用実態や動向、利用のニーズを知るために館利用に関するアンケートやモニター調査を実施している。来館者の実態や来館者数の動向を把握するための調査を実施している</p> <p><評価> A</p> <p>各事業や館自体についてのアンケートを実施。</p>	
	<p>60 障がい者に対する配慮として入館料の割引（無料を含む）を実施している</p> <p><評価>A 免除規定に基づき実施。</p>	
	<p>61 「友の会」を設置している</p>	

	<p><評価> A</p> <p>登録調査研究支援団体として「郷土文化研究会」、「博物館友の会」、「美術館友の会」を設置。</p>	
	<p>62 「ボランティア制度」を導入している</p>	
	<p><評価> A</p> <p>「ボランティア制度」を導入し、展示会の監視活動を実施。</p>	
	<p>63 地元 NPO などと関わるなかで市民が館の事業に参画する機会を設けている</p>	
	<p><評価> A</p> <p>樽前 arty+ と連携した「びことま」の発行など、NPO と協力した事業も展開。</p>	
	<p>64 「美術博物館協議会」などを通じて市民に館の運営に参画してもらっている</p>	
	<p><評価> A</p> <p>「美術博物館協議会」を設置し、年2回開催。</p>	
	<p>65 地元の企業・団体（観光協会、商工会議所など）と協賛・協力し、事業を実施している</p>	
	<p><評価> A</p> <p>H29 年度は特別展「水から未来を紡いで 20 世紀美術の創造」をトヨタ自動車北海道(株)との共催により実施。</p>	

5 まとめ

多くの市民の皆さんに親しまれる美術博物館を目指して、美術博物館の事業活動を振り返るため、この度平成29年度の事業活動計画に基づく、展示事業、教育普及事業、調査・研究活動、資料の収集、保存方針、管理運営の5事業についてそれぞれ報告書を作成し、65項目の評価指標について一次評価（館内自己点検評価）を行い、苫小牧市美術博物館協議会委員による二次評価が行われた。

【総合評価】

事業全体としては、5事業全てが中央値でA評価となっているが、二次評価では、「調査・研究活動」や「資料の収集、保存の方針」において、B判定を付けた委員も多く、それらの事業に費やす予算や時間の拡充の必要性を問われた。今後は、限られた予算や人員を、いかに効率的に各事業に配分するかが、課題となりそうである。

試行期間を経て、平成29年度から本格的に苫小牧市美術博物館自己点検評価制度の導入を行い、この度、本報告書によりその内容を公開することができた。ただし、二次評価にあたっては検討のための資料・データ類が十分に準備されていなかったため、客観的評価が難しい面があった。事業評価に必要な資料のとりまとめには大変な労力がかかると思われるが、適切な評価ができるように準備を万全にしていきたい。

職員による一次評価、外部委員による二次評価の両面から様々な課題が浮き彫りになってきたと思われる。評価報告により、絞られてきたこれらの課題解決に向けて、次年度以降自助努力を進めていきたい。

なお、今後においても、美術博物館基本計画や事業計画に照らし合わせながら各事業を執行し、執行後の達成状況、運営状況について、再び点検及び評価を行い、またその都度改善を行いながら、内容を公表していきたいと考える。

令和元年7月

苫小牧市美術博物館協議会
会長 揚妻直樹

苫小牧市美術博物館協議会委員名簿

任期:平成30年6月1日～平成32年5月31日(2年間)

H30.6.1 現在 五十音順/敬称略

氏名	職業・役職
揚妻 直樹	北海道大学苫小牧研究林 林長【会長】
石川 一美	苫小牧市明野小学校 校長
居島 恵美子	苫小牧市美術館友の会 事務局次長
大澤 智恵美	苫小牧市PTA連合会 副会長
金田 正弘	苫小牧市博物館友の会 副会長
菊地 綾子	フリーランスライター (市民公募)
坂元 修	苫小牧市植苗中学校 校長
橋爪 好伸	苫小牧郷土文化研究会 理事
林 廣志	苫小牧写真連盟 会長【副会長】
山田 利一	苫小牧駒澤大学 教授 (市民公募)